

参加者の田中實さんから

“ぐさっ”と心に残った旅

『佐賀さ行こう』の旅、それは大阪南港で井本団長の目の覚めるような力強い結団式の挨拶で始まりました。個人の旅行では、滅多に見聞出来ない旅になるだろうと、わくわくしながら乗船しました。

楽しみの一つは、たくさんの熱気球が一斉に大空へ舞い上がる光景を見る事でした。ところが、当日は強風のため中止。残念！熱気球のパイロット達は切り替えが早いのか、JR 列車内で出会った二人の外国人パイロットは、今から小城のお寺を見学に行くと楽しそうでした。

熱気球世界選手権大会がこの地で開催されるのは三回目で、しかも佐賀の大会はトップレベルにあると聞きました。天山を背景にした佐賀平野のすばらしさと大会の運営を支えておられる多くの佐賀県民の方々の心意気に、私は大きな誇りを感じました。

翌日、三重の海軍所跡を訪れた際、改めて佐賀十代藩主閑叟と藩士であった佐野常民が幕末から明治にかけ日本の近代化に大きく貢献していたことを知り感銘を受けました。そして、もう一度佐賀の歴史と文化を学びたくなりました。

振り返って今回の旅、滅多に訪れる機会のない佐賀県庁で山口知事さんのお話が伺え、感激でした。訪れた先でもそれぞれの市長や町長さんから温かい歓迎を受け、ふるさと佐賀と関西の結びつきの強さを痛感しました。

訪れた地にはそれぞれに歴史と伝統があつて、見聞するほどに肥前佐賀に流れる歴史の重みをひしひしと感じることが出来ました。武雄のホテルでいただいた久しぶりの“佐賀のお酒、おいしかったなあ”。嬉野でいただいた昼食のうなぎ、今も口の中で思い出されます。

最後に、この旅行を企画し私たちが大阪南港に無事帰り着くまでご尽力いただいた旅行実行委員会の方々、並びに色々応対しお世話をして下さった地元佐賀の皆様方に感謝と敬意を表します。



写真左が執者

正面玄関前の「佐野常民」の銅像を横に記念写真を撮って、一路佐賀駅に向かいました。



佐賀駅で18名の方が下車されるため、岡会長と井本団長から、2日間の佐賀県内旅行が事故もなく、無事に終えましたことの感謝と喜びのご挨拶で締めくくられ、一部散会いたしました。

佐賀駅で18名が下車したあと、残る17名で一路「新門司港」へ向けて出発して、午後6時過ぎに無事に「新門司港」に到着できました。

乗船した面々は、レストランでバイキング料理の夕食を摂り、旅の思い出談義に花を咲かせ、帰路の船旅を楽しみました。

明けて11月3日、フェリーは午前8時30分定刻に「大阪南港」に接岸いたしました。下船して、到着ロビーにて解団式を行いました。皆さんお疲れ様でした。



ふるさと佐賀の皆様の温かいおもてなしと佐賀の歴史に触れた貴重な、楽しい旅でした。“佐賀は良かったバイ！” また行きたかね！を合言葉に、ご報告とさせていただきます。（毛利晴世記）

貼って、寝て、
もっと
きもちいい。

サロンパス®
肩こり・腰痛・筋肉痛に 第3類医薬品

Hisamitsu®

